

『禅のこころ-曹洞宗-』

じょうどう え 成道会

平成29年12月第1週放送

年末にむかい、街はクリスマスムードに包まれています。クリスマスはキリストの誕生を祝う行事ですが、日本の仏教では、十二月八日をお釈迦さまがおさとりを開かれた日として、行持ぎょうじをおこなっています。“道”を“成す”と書いて「成道」。そして、その日に行う行持じょうどうえを「成道会」といいます。

四月八日をお釈迦さまの誕生の日として「降誕会ごうたんえ」、二月十五日をお亡くなりになった日として「涅槃会ねはんえ」といい、「成道会じょうどうえ」と合わせたこの三日の日を大切な日として行持をおこなっています。

アジアの多くの国では「ウェーサク祭」と呼び、この三日の大切な出来事をお釈迦さまの日として同じ日に祝っています。

出家をされたお釈迦さまは、六年間断食だんじきや長時間息を止めたり、冬の凍いてつく川もくよくで沐浴くぎょうするというような、苦行を続けます。

ある日「自分が求めるさとりはこのような方法では到達できない」と気づいたお釈迦さまは、苦行をやめてネーランジャラー川で身を清めます。そして、弱った体を休めていると、村のスジャータという娘がそれを見てミルクで煮たお粥を供養します。それにより体力を取り戻したお釈迦さまは、川岸の一本の菩提樹ぼだいじゆのまわりを三回まわって礼拝らいはいし、東を向いて坐禅ざぜんを組みます。

お釈迦さまは明け方近くに、“あらゆるものは原因と条件である「因縁いんねん」によって生じている”という「縁起えんぎ」について気づいたのです。これによりお釈迦さまは、「苦しみ」は原因や条件が重なることで生まれるものであり、その原因や条件が滅めつすれば苦しみが消えてゆくと知りました。その上で、私たちの苦しみとは何か、その苦しみの原因・条件とはどのようなものか、苦しみの消えた状態はどのようなものか、苦しみの原因・条件を滅するにはどのようにすれば良いのかと考えて行き、四つの真理を見出したのです。

そして、生きること、老いること、病やまい、死の苦しみを乗り越え、自らのさとりを完成しました。これを「成道じょうどう」といいます。お釈迦さまを“ブッダ”と呼びますが、“目覚めた人”、“さとった人”という意味であり、この「成道」により“ブッダ”となったのです。お釈迦さま三十五歳の時でした。

その後、お釈迦さまは一生続く教えの旅を始めます。お釈迦さまを慕うお弟子したさんがたくさんでき、お釈迦さま亡き後、その教えは世界中に拡がりました。現在、

『禅のこころ-曹洞宗-』

全世界で仏教徒は四億人とも五億人ともいわれています。

時代や地域が違って、たくさんの人々がお釈迦さまのおさとりの日を様々な形で祝っていると考えてみてください。皆さんの思いは世界の人々と繋がっているのです。

— 終 —